

JACLaP WIRE No.75 (2004 年 10 月 13 日発刊)

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.75 です。

\*\*\*\*\*

===== 目次 =====

【お知らせ-1】会員動向(2004年9月29日現在数 677名, 専門医 492名)

【お知らせ-2】平成16年度会費納入、および所属、連絡先などの変更について

【お知らせ-3】内保連の第96回例会について

【WHOトピックス】

【1】心臓病と脳卒中に関する世界のデータ集がWHOより出版

< Press September 2004 WHO-177 >

【MTJ (The Medical & Test Journal) 9月1日号から】

【MTJ (The Medical & Test Journal) 9月11日号から】

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-1】

会員動向(2004年9月29日現在数 677名, 専門医 492名)

新入会員

武田博明 先生: 済生会山形済生病院

所属変更会員

入江康司 先生: 旧 佐賀県立病院

新 天心堂へつぎ病院

退会会員

太田圭治 先生: エスアールエル山形ラボラトリー

野崎士郎 先生: 愛媛労災病院

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-2】平成16年度会費納入、および所属、連絡先などの変更について

今年度も既に9ヶ月が経過しました。

今回の総会で日本臨床検査専門医会事務所を設置することが決定されました。

先生方の会費によって運営される本会です。会費の滞納がありますと会の運営が困難

になります。

未納の先生方は本年度会費のお支払いをお願いいたします。

なお、会費の払い込み状況のお問い合わせは事務局まで E-mail あるいは FAX でお願いいたします。

日本臨床検査専門医会事務局

庶務・会計幹事 土屋 達行

〒101-8309 千代田区神田駿河台 1-8-13

駿河台日本大学病院 臨床検査医学科内

電話・FAX：03-3293-1770

E-mail ; tsuchiya@med.nihon-u.ac.jp

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-3】内保連の第96回例会について

内科系学会社会保険連合(内保連)の第96回例会が平成16年9月8日に東海大学校友会館で開催された。厚生労働省保険局医療課の麦谷真里課長より、「平成18年診療報酬改定の方向について」というテーマで講演があった。平成18年の改訂では平成16年改定で対応できなかった課題である、慢性期入院医療の患者特性に応じた包括評価、入院時食事療養費の評価、ドクターフィー、ホスピタルフィーの再編、老人診療報酬体系の在り方について検討する予定とのことであった。検査関連委員会では、生体検査の項目と点数については、内保連と外保連が協力して要望書を提出する予定である。内科系医師のドクターフィーに関しては、技術評価委員会の茅野委員長が、時間と卒年(外来診療に絞って)でまとめている。また、中医協実態調査の協力依頼について、内保連の加盟学会の委員に本調査に協力を求めていくことになった。詳細は内保連のホームページ(<http://www.naihoren.jp/>)をご覧ください。

(内保連副代表 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【WHO トピックス-1】心臓病と脳卒中に関する世界のデータ集がWHOより出版

< Press September 2004 WHO-177 >

WHOが米国CDCと協力の下に、心臓病と脳卒中について世界のデータ集を発刊した。心臓病と脳卒中の死亡者は、世界中で年間1700万人おり、全死亡者の三分の一を占めている。2020年には年間死亡者数は2000万人、2030年には2400万人に増加するといわれている。

心臓血管病は従来、先進国の中年肥満男性がかかると言われていたが、現在では男性、女性、子供年齢を問わず全ての人に起こる。高度の治療を受けても死亡率を減少させることはできないので、子供の頃から予防することが必要である。健康的な生活習慣を身につけ、危険因子を除去することである。危険因子としては、高血圧、喫煙、運動不足、肥満、糖尿病、脂質代謝異常などである。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【M T J (The Medical & Test Journal) 9月1日号から】

#### 日衛協 ホルマリン入り組織片容器の無償提供禁止含め会員通知

医療機関からの病理組織片を受託する際に使用するホルマリン入り容器の搬送、受渡しをおこなう検査センターに対して全国の10を超える都府県が、毒劇物取締法に基づき各営業所単位で毒物劇物取扱責任者を配置するなど法令順守を指導していることが明らかになった。こうした状況をうけ、日本衛生検査所協会はこのほど、毒物劇物取締法の順守と、ホルマリン入り組織片容器の提供についても衛生検査所業公正競争規約にもとづき有償提供の徹底を図るよう会員センターに対して通知した。

#### 日本人間ドック学会 人間ドック施設を第三者評価

日本人間ドック学会は8月20日、人間ドックや検診施設の第三者機能評価事業を9月から始めると発表した。機能評価事業は、施設のレベルが「玉石混交」(奈良理事長)といわれるドックについて「精度管理や検査水準などの平準化」を図ることがねらいのひとつ。施設や設備の単なる評価にとどまらず、組織の運営体制や受診者への配慮にまで踏み込んで評価する。

#### 北里大学東病院臨床検査部 治験業務へ検査技師を出向

臨床検査部は、いまや検査部内での業務だけでなく他職種とともにチーム医療に参加する動きが広がっている。そのひとつが治験業務への参画だ。北里大学東病院(505床)臨床検査部は、すでに4年前から治験管理センターへの検査技師の出向を

実践している。昨年6月には、治験管理センターの16床が36床に増床され、現在、出向検査技師は4人（正職員3人、臨時職員1人）になっている。こうした臨床試験への検査技師の参加は、今後も増えていく可能性が高い。

#### 本紙調査 特定機能病院の診療録管理加算未算定は3割弱

入院診療情報データを作成するうえで基本的な診療報酬項目ともいうべき診療録管理体制加算が算定できないDPC導入・試行適用病院（82病院・62病院合わせて144病院）は25病院（17.4%）にのぼることが、本紙の調査で明らかになった。とくに特定機能病院等82病院のうち23大学病院（28%）が、診療録管理体制加算の算定要件をクリアできない現状だ。中でも未算定病院は私立大学病院が2病院だけで、その多くは国立大学病院、自治体立大学病院で占めるなど、経営主体によって大学病院間で取り組みに格差が見られた。

#### 【MTJ（The Medical & Test Journal）9月11日号から】

「機器リースシステム販売」方式

「機器の無償」は公取委告示第54号・景品表示法第3条抵触

全国の病院検査部に広く普及している「機器リースシステム販売」方式は、検査機器・検査薬の取引形態の範ちゅうを逸脱し、いまや医療用具業の販売方法に侵食する危険性をはらんでいる。こうした事態をうけ医療用具業公正取引協議会は、「機器リースシステム販売」に関する契約書で、機器の使用料や保守点検修理費を検査薬の契約販売で補てんしようという販売行為は、「検査薬の取引を不当に誘引する景品類の提供にあたり、不当な景品類の提供を制限した規則（公取委告示第54号、景品表示法第3条）に抵触するおそれがある」と警鐘をならした。

#### 小崎日臨技会長 ISO15189の認定に慎重な姿勢を表明

国内におけるISO15189の認定作業が進むなかで、日本臨床衛生検査技師会の小崎繁昭会長はこのほど、「ISO15189の認定事業に反対するものではないが、認定を取得することのメリットが明確でない」との認識を示すとともに「（生理検査を除く）検査部の一部分を認定することの意味がわかりにくいし、検査室は生理

検査と検体検査を合わせて病院検査部だ。そこが検査センターとは、全く異なる」とし、ISO15189の認定事業に「検体検査部門の器を認定するだけでいいのか」と問題提起した。その意味では、日臨技などで進めている認定検査技師制度によってマンパワーの底上げを図り、検査情報の質的向上を図ることの一層の重要性を指摘した。

#### JCCLS 学術集会 参加者から ISO 認定に“国主導”を求める意見も

日本臨床検査標準協議会（JCCLS）学術集会がこのほど、都内で開かれた。今回のテーマは、ISO15189をめぐる動きだ。フロアからは、ISO15189についての自主申請で、認定取得を目指すことの重要性を踏まえたうえで、「認定取得は義務なのか。行政主導で進めていくのが妥当ではないか」との意見が相次いだ。これに対して河合忠氏は「認定事業への申請義務はない。日本では義務化をしていない」としたうえで、今後の臨床試験の方向などを考慮すれば臨床検査室における ISO 取得はひとつのポイントになるとの見通しを示した。

#### 厚労省調査 マンモグラフィによる乳がん検診実施は6割弱

厚生労働省老健局老人保健課は9月2日、マンモグラフィによる乳がん検診状況について調査結果をまとめた。それによると今年3月31日現在、マンモグラフィによる乳がん検診を行っている市町村は全体の58.3%の1839市区町村と全体の6割にも満たない現状が明らかになった。全国3155市区町村を調査、回答は100%であった。厚労省は全市町村でマンモグラフィ検診が受けられる体制を整備する方針だが、296の市町村は2005年度以降も実施予定がなく、このうち財政的に整備が困難な市町村は62に上る。またすべての市町村が実施している県がある半面で、1けたの実施率の県もあり、都道府県の格差が大きいことも明らかになった。

#### デンカ生研 自動分析装置で測定可能な sdLDL 試薬を開発

デンカ生研は、血清中の small dense LDL（sdLDL）を汎用自動分析装置で簡便、短時間で測定可能な方法を芳野原東邦大学教授、平野勉昭和大学助教授とともに共同で開発、このほど研究用試薬（sd LDL-C「生研」）として発売した。sdLDL は、LDL の中でも粒子サイズが小さく比重が高いもので、LDL サイズが小型化したヒトでは、正常のヒトに比べて冠状動脈硬化性心疾患発症のリスクが3倍高くなることが報告されており、LDL を超える動脈硬化性疾患の予知マーカー「超悪玉コレステロール」として

注目されている。

=====

JACLaP WIRE, No.75 (2004 年 10 月 13 日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [ 情報・出版委員会 ]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読(配信)・広告等に関するお問い合わせ先：

E-mail：uys-com@umin.ac.jp

TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査専門医会ホームページ：<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー：<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

-----

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には

氏名, 2.現行登録アドレスと 3.変更希望メールアドレスを添えて

uys-com@umin.ac.jpまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*